

## 自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 第4条（貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の拘束時間等）

使用者は、貨物自動車運送事業（貨物自動車運送事業法第2条第1項の貨物自動車運送事業をいう。以下同じ。）に従事する自動車運転者を使用する場合は、その拘束時間（労働時間、休憩時間その他の使用者に拘束されている時間をいう。以下同じ。）、休息期間及び運転時間について、次に定めるところによるものとする。

1 拘束時間は、1箇月について284時間を超えず、かつ、1年について3300時間を超えないものとする。ただし、労使協定により、1年について6箇月までは、1箇月について310時間まで延長することができ、かつ、1年について3400時間まで延長することができるものとする。

3 1日（始業時刻から起算して24時間をいう）についての拘束時間は、13時間を超えないものとし、当該拘束時間を延長する場合であっても、最大拘束時間は15時間とすること。ただし、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者に係る1週間における運行が全て長距離貨物運送（1の運行（自動車運転者が所属する事業場を出発してから当該事業場に帰着するまでをいう。以下この項において同じ。）の走行距離が450km以上の貨物運送をいう。）であり、かつ、1の運行における休息期間が、当該自動車運転者の住所地以外の場所におけるものである場合においては、当該1週間について2回に限り最大拘束時間を16時間とすることができる。

5 勤務終了後、継続1時間以上の休息期間を与えるよう努めることを基本とし、休息期間が継続9時間を下回らないものとする。ただし、第3号ただし書に該当する場合、当該1週間について2回に限り、休息期間を継続8時間とすることができる。この場合において、1の運行終了後、継続12時間以上の休息期間を与えるものとする。

6 運転時間は、2日（始業時刻から起算して48時間をいう。次条において同じ。）を平均し1日当たり9時間、2週間を平均し1週間当たり44時間を超えないものとする。こと。

7 連続運転時間（1回がおおむね連続10分以上で、かつ、合計が30分以上の運転の中断をすることなく連続して運転する時間をいう。以下この条において同じ。）は、4時間を超えないものとする。ただし、高速自動車国道（高速自動車国道法第4条第1項の高速自動車国道をいう。）又は自動車専用道路（道路法第48条の2第1項若しくは第2項の規定により指定を受けた道路をいう。）（以下「高速道路等」という。）のサービスエリア又はパーキングエリア（道路法施行令第7条第13号若しくは高速自動車国道法第11条第2号に定める施設をいう。）等に駐車又は停車できないため、やむを得ず連続運転時間が4時間を超える場合には、連続運転時間を4時間30分まで延長することができるものとする。

8 前号に定める運転の中断については、原則として休憩を与えるものとする。

2 使用者は、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の休息期間については、当該自動車運転者の住所地における休息期間がそれ以外の場所における休息期間より長くなるように努めるものとする。

4 第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合には、拘束時間及び休息期間については、それぞれ次に定めるところによるものとする。

1 業務の必要上、勤務の終了後継続9時間（第1項第3号ただし書に該当する場合は継続8時間）以上の休息期間を与えることが困難な場合、次に掲げる要件を満たすものに限り、当分の間、一定期間（1箇月程度を限度とする。）における全勤務回数の2分の1を限度に、休息期間を拘束時間の途中及び拘束時間の経過直後に分割して与えることができるものとする。

イ 分割された休息期間は、1回当たり継続3時間以上とし、2分割又は3分割とすること。

ロ 1日において、2分割の場合は合計10時間以上、3分割の場合は合計12時間以上の休息期間を与えなければならないこと。

2 自動車運転者が同時に1台の自動車に2人以上乗務する場合であって、車両内に身体を伸ばして休息できる設備があるときは、最大拘束時間を20時間まで延長するとともに、休息期間を4時間まで短縮することができる。ただし、当該設備が自動車運転者の休息のためのベッド又はこれに準ずるものとして厚生労働省労働基準局長が定める設備に該当する場合で、かつ、勤務終了後、継続1時間以上の休息期間を与える場合は、最大拘束時間を24時間まで延長することができる。この場合において、8時間以上の仮眠を与える場合には、当該拘束時間を28時間まで延長することができる。